台大日本語文研究第 27 期
2014 年 6 月，頁 161-180
2013-09-30 收稿，2013-12-01 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP.2014.27.161

接續助詞「けど」的用法
―電話會話的語料庫做為研究基礎―

深尾圓*

摘要

本稿以自由的電話會話來做接續助詞「kedo」用法的調查。

LDC 的日文語料庫，共計 10 小時又 45 分的會話，共有 1047 個「kedo」來做分析。根據之前的研究，將「kedo」的用法分爲六類，並依分類做個別的統計。從結果得知，逆接用法只占全部的 12.7%。而前言、修改、補充說明等等註解的用法占全部的 40.7%。另外終助詞的用法占全部的 35.3%。由這次的研究結果得知，在自由會話中，接續助詞「kedo」的主要用法並非逆接用法而是說明，註解的用法較有可能。從本次的調查結果來看，我認爲在日語教學中，教導學生接續助詞「けど」的時候，應該以逆接用法僅僅是「けど」用法中的其中一種而已的觀點來教學，在說明、註解的功能上多加講解，而逆接的用法則不需過於強調。

關鍵詞：「kedo」、接續助詞、註解、說明、逆接用法

* 國立高雄大學專案副教授

Usages of Conjunction Particle *Kedo*: Based on the Data of a Japanese Corpus

Fukao, Madoka*

Abstract

In this paper private telephone conversations were analyzed. 1047 *kedo* were used during the conversations of 10 hours 45 minutes in the LDC Corpus. Referred to National Institute for Japanese Language and Linguistics1951 and Morita1989, *kedo* were categorized into 6 usages and each usage of the data was counted. As a result the data show that contradictory usage accounts for only 12.7 percent. On the other hand *kedo* with the explanatory meanings such as introductory usage, revised usage, additional explanatory usage accounts for 40.7 percent in total. Modality usage accounts for 35.3 percent. Based on these results, it is considered that the key meaning of *kedo* is not a contradictory usage but an explanatory one.

Keywords: *kedo*, conjunction particle, explanatory meanings, contradictory usage

* Appointed Associate Professor at National University of Kaohsiung

接続助詞「けど」の用法について
―電話の会話コーパスを対象とした調査―

深尾まどか*

要旨

本稿では、電話での自由な会話を対象に接続助詞「けど」の用法を調査した。LDC の日本語コーパス、計 10 時間 45 分の会話を聞いて、「けど」1047 例を分析した。そして、先行研究を基に「けど」の用法を 6 つに分類し、それぞれの用法の使用頻度を集計した。その結果、逆接用法は「けど」全体の 12.7%を占めるに過ぎないことがわかった。そして、前置き、補正、補足説明用法などの注釈をする用法が全部で 40.7%を占めた。また、終助詞的用法は 35.3%を占めた。今回の調査結果から、自由な会話では、接続助詞「けど」の中心的な用法は逆接用法ではなく、説明、注釈をする用法である可能性について述べた。

本稿で得られた調査結果から、日本語教育の現場では、学習者に対して、接続助詞「けど」は、説明、注釈という機能を持つことを積極的に教え、逆接の接続助詞であることを強調しすぎるのではなく、逆接用法は「けど」の用法の 1 つにすぎないという視点で教えるべきであると考える。

キーワード：「けど」、接続助詞、注釈、説明、逆接用法

* 国立高雄大学嘱託准教授

接続助詞「けど」の用法について
—電話の会話コーパスを対象とした調査—

深尾まどか

一、はじめに

近年、日本語教育のための文法（日本語教育文法）という考え方からの研究が行われるようになってきている。「日本語教育文法」では、「日本語記述文法」とは異なり、日本語教育における必要度に応じて文法記述を行う（庵 2011：5）。コミュニケーションの遂行に必要な要素として文法体系を改めて位置づけ、文法シラバスを再構築する（小林 2002：160）。「日本語教育文法」の先行研究では、学習者のニーズ、コーパスのデータ、使用実態のアンケート調査に基づいた新しいシラバスへの提案がされている（小林 2002、2005、清ルミ 2004）。

本稿で取り上げるのは接続助詞「けど」である。以前、筆者は夜間部の 2 年生のクラスで「けど」について説明したことがあった。「けど」には後述するように様々な用法があり、2 年生には既習だと考えた筆者は教科書に出てくるそれぞれの用法を学生に簡単に確認するつもりだった。ところが、そのクラスは逆接用法を学習したばかりであったらしく、「けど」に対比用法、前置き用法、終助詞的用法など他にも多くの用法があることをなかなか理解できなかった学生がいた。そこで、学生の負担を減らすため、本稿では日本語コーパスを対象に接続助詞「けど」は実際にはどんな用法がよく使用されているのかを調査することにした。

本稿の構成は次の通りである。第二節では、「けど」の先行研究と教科書での扱いを概観する。第三節では、本稿で使用したコーパスについて述べる。第四節では、先行研究を基に「けど」の用法を分類し、自由な会話コーパスを対象にそれぞれの用法の使用頻度を集計する。最後に、第五節で、結論を述べる。

二、先行研究及び教科書での扱い

（一）「けど」の意味、用法に関する先行研究

「けれども」[1]「が」「のに」「ても」は逆接を表す代表的な形式であると考えられる（前田 1995：496）と述べられているように、従来「けど」は逆接の接続助詞に分類されることが多かった。一方で、先行研究によって「けど」は様々な用法が指摘されている。国立国語研究所（1951：43-48）は接続助詞の「けれども」類を①共存、時間的推移、②前置き、③対比、④補充的挿入の 4 種類の用法に分類している。森田（1989：410-411）は、「けれど」類を①逆接、②対比、③並列、累加、④話を展開させる、⑤中途で言いさして表現を婉曲にする、に分類している。さらに、小出（1984：31-32）は、接続助詞「ガ」の機能を、①「談話主題の提示」②「補足説明の提示、前置き」③「発話行動への注釈」④「2 つの対比的事柄の提示」の 4 つに分類し、①～③を「後件に述べられる内容を理解しやすくしたり、受け入れやすくする円滑化機能」、そして、④を「情報伝達を中心とする機能」であると説明している。接続詞に関してではあるが、岩澤（1985：39）は、逆接型接続詞をテレビ番組の談話資料を対象に調べ、逆接用法以外に、展開用法、転換用法、対比用法、補足用法があることを指摘し、そして、逆接型接続詞の機能は文の流れの変化を示す標識であると思われると述べている。

従来、「けど」は逆接の接続助詞であり、逆接の用法が最も多いと考えられてきている[2]。しかし、先行研究により指摘されているように「けど」には様々な用法があり、実際の会話では、逆接以外の用法もよく耳にする。「けど」で最も使用される、中心的な用法はどの用法なのであろうか。

---

[1] 多くの先行研究では、「けれども」「けれど」「けども」「けど」「が」（「けれど」類または「けれども」類、「ガ」と表記する。）も含めて研究されているが、本稿では、「けど」と「けれど」「けども」「が」の間には意味的相違があると考え、「けど」だけを分析の対象とした。

[2] 前田（1995：505）は、ケレドモには、多くの場合は逆接的な 2 つの事態を接続するが、順接的な場合もあると述べている。

これまで接続助詞「けど」の用法について書き言葉を対象にした調査は伊藤（2005）があるが、実際の自由な会話資料を対象にした調査は管見の限りない。そこで、本稿では、自由会話の日本語コーパスを分析し、「けど」はどんな用法が多いのかについて調査を実施することにした。

（二）「けど」の各用法の使用頻度に関する先行研究

実際の資料を基に調査した先行研究には、接続助詞「けれども」類を調査した伊藤（2005）と接続詞「けれど」類を対象に調査を行った岩澤（1985）がある。岩澤（1985）の調査対象は接続詞ではあり、接続助詞ではないが、実際の談話資料を対象にして調査が実施されており、本稿では接続助詞と接続詞には意味的に共通する部分がある[3]と考え、参考までに紹介する。

表 1　先行研究のコーパスの概要

	伊藤（2005）		岩澤（1985）
コーパス	小説やエッセイ 8 冊		「徹子の部屋」 （1986 年 6 月～9 月）
内容	会話文 地の文	会話文	談話
長さ	2114 頁		記載なし
対象	「けれど」類 557 例	「けれど」類 241 例	接続詞「けれど」類 56 例

伊藤（2005：196-198）の調査結果を図 1-1、1-2 に示す。

[3] 時枝（1950）は、接続詞は、意義上、接続助詞といわれる一群の助詞と極めて近似していると指摘している。

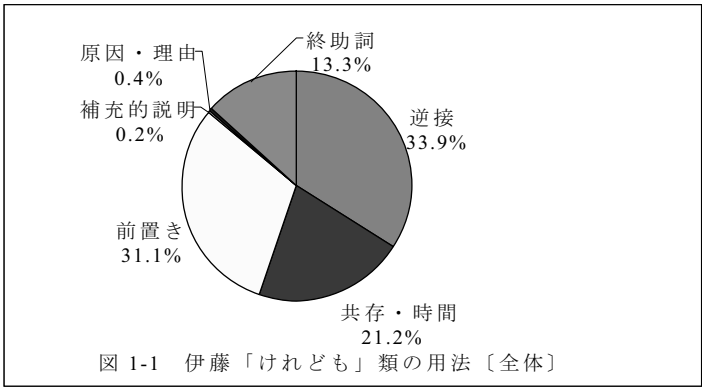


図 1-1　伊藤「けれども」類の用法〔全体〕

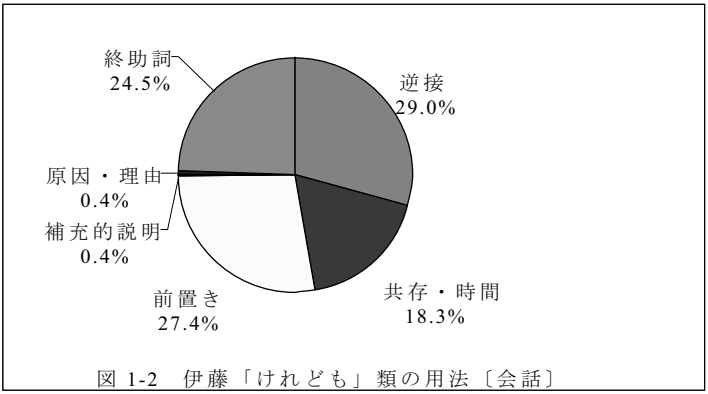


図 1-2　伊藤「けれども」類の用法〔会話〕

書き言葉を対象とした伊藤（2005 : 196-198）の調査結果[4]では、「けれども」類の用法のうち逆接用法が最も多く 189 例（33.9%）と 3 分の 1 を占める。次に、前置き用法が 173 例（31.1%）と僅差で続く。両者の差は 2.8%である。地の文を除いた会話文だけを対象にした調査では逆接用法 70 例（29.0%）に対して、前置き用法 66 例（27.4%）と、両者の差は僅か 1.6%である。

岩澤（1985 : 39）の調査結果を図 2 に示す。

[4] 本稿では、「けど」の終助詞的用法も、説明という機能があると考え、接続助詞の一用法として位置づけた。伊藤（2005 : 196-198）は、接続助詞「けど」とは別に終助詞を集計しているが、本稿のデータと比較するため、接続助詞「けど」と終助詞「けど」を合わせて 1 つのグラフにした。

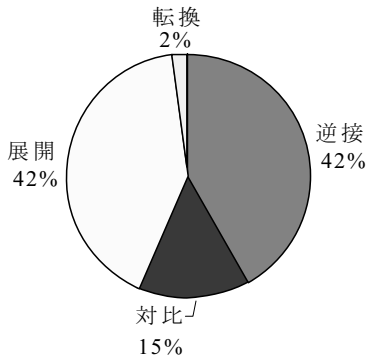


図 2　岩澤「けれど」類の用法

岩澤（1985：39）は、逆接型接続詞をテレビ番組の談話資料を対象に調査している。その結果、「でも」は展開用法が多くの割合を占めており、「けれど」類は、逆接用法と展開用法が共に 42%を占めていると指摘している。岩澤（1985：42-43）は、展開用法を、逆接用法が曖昧化した用法で、「そこで、すると、と、で、それから…」等と交換可能な例であると考えている。

（三）「けど」の用法の日本語教科書での扱い

「けど」の用法は日本語教科書でどのように提出されているのであろうか。台湾の大学で実際に使用されている初級のテキスト 2 種類を調べてみた。表 2 にそれぞれの用法の初出の課を挙げる。

・名柄迪原著『JAPANESE FOR EVERYONE 上、下』致良出版社

・スリーエーネットワーク編『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』大新書局

表 2　「けど」の用法の提出順序

『JAPANESE FOR EVERYONE』 第 6 課　このアイロンは安いけど、とても丈夫です。[逆接用法] 第 9 課　今晩は。これ、少しですけど、･･･どうぞ。[前置き用法] 第 17 課　来週の金曜日大阪に行ってほしいんだけど。[終助詞的用法]
『みんなの日本語初級Ⅱ』 第 20 課　「そのカレーライス、おいしい？」「うん、辛いけど、おいい」[逆接用法] 「相撲好き？」「うん。」「チケットあるけど、いっしょに行かない？[前置き用法]

まず、『JAPANESE FOR EVERYONE 上、下』では、「けど」は最初に逆接用法が提出されている。第 6 課で「けど」は、他の「でも」「けれども」「しかし」「が」と共に逆接の接続詞や接続助詞として学習項目の 1 つとして説明がある。本文で「が」の前置き用法が 2 回提出されているが、「けど」は使用されていない。「けど」の前置き用法が提出されるのは第 9 課になってからで、本文で提出されており、学習項目としての説明はない。そして、第 17 課で終助詞用法という提出順序になっている。『みんなの日本語初級Ⅱ』では、第 20 課で逆接用法、前置き用法が同時に提出されている。しかし、「けど」の語句の翻訳の部分には「但是」の意味しか記載されていない。やはり、まず「けど」は「但是」の意味であると学習者は学習していると思われる。

三、調査コーパス

調査対象は Linguistic Data Consortium（以下、LDC と略す。）の The CallHome Japanese speech である。いくつかある日本語コーパスの中から、LDC のコーパスを選んだ理由は、自由な会話が収録されているということ、音声データがあるということの 2 点である。今

回の調査は書き言葉ではなく自由な会話を対象としており、「けど」の音声データを1つ1つ聞いて分析した。自然な日本語の会話では、あいづちがたびたび入り話が一時途切れたりすることがよく起きる。話し手の正確な発話意図を理解するためにも音声データが必要であると考えられる。表 3 に、LDC のコーパスの概要を示す。

表 3　LDC のコーパスの概要

	LDC
コーパス	The CallHome Japanese speech
内容	電話での自由会話 友人、家族など親しい間柄
長さ	約 10 時間 45 分
対象	「けど」1047 例

これは、北米在住の日本人がその家族や友人に電話した会話を録音したもので、親しい間柄での自由な会話であり、よって、ほとんどが普通体での会話である。調査の対象としたのは、収録された 120 の会話のうち、共通語もしくは共通語に近いと考えられる 68 の会話である。それぞれ 15 分から 30 分の会話のうち、スクリプトのある部分（開始時間から 1、2 分ほど経過した時点から 5 分から 10 分程度の会話の部分）全てを対象に、CD を聞いて分析した。調査対象の合計は約 10 時間 45 分である。スクリプトのある部分の会話参加者は女 119 名，男 25 名で，合計 144 名ある。なお、データの用例の引用にあたり、特定の人名や地名などの固有名詞などは記載せず［-人名-］などと表記する。

四、LDC のデータを対象とした「けど」の用法の調査

まず、「けど」の用法の分類基準とそれぞれの用法の例を示し、次に、調査結果について述べる。

（一）「けど」の用法の分類

LDC のデータを分析し、先行研究と辞書の記述を基に、本稿では「けど」を次の 6 つの用法、1.逆接用法 2.共存･時間･対比用法 3.前置き用法 4.補正用法 5.補足説明用法 6. 終助詞的用法に分類し、データを集計した。それぞれの例を次に挙げる。例の中の（　）内はあいづちを示す。

1、逆接用法

「後続部が先行部から予測される結果に反することを示す」（日本語記述文法研究会 2003：77)、「前件と、それとは相いれない事柄や、予想に反する結果を述べる後件とを結びつける」(『日本語文法大辞典』2001：238）用法である。

（1）それで電話かけるけどね、通じないのよ、その時。

（2）（宿題を）きのう、だから、やろうと思ったけど、寝ちゃったからさ。

2、共存･時間･対比用法

「2 つの事柄を並べ挙げる際のつなぎ、共存の場合。また、単なる時間的推移を表すこともある」（国立国語研究所 1951：43-44）用法で、「二つの事柄を、対比的に又は並列的に、ならべ挙げるのに用いられる。単に時間的推移を表すこともある」(『日本語文法大辞典』2001：239）用法である。本稿では、まとめて共存･時間･対比用法とした。聞き手のあいづちが入ることはあるが、「共存･時間･対比用法」では、基本的に話し手は話を続ける意志を持つ。あいづちなど聞き手が話に入り、話し手が、話を続ける意志を持つかどうかがわかりにくい場合は、前後の文脈と「けど」のイントネーションで判断した。平調のイントネーションは話を続ける意志があるとき、下降調のイントネーションは、話が終わっていると判断した。

（3）それからまだ面白いことあるのよ。[-人名-]とね、[-地名-]の辺まだ歩いてるんだけどね、（うん。）[-猫の名前-]が一緒に行くの。（共存）

（4）（自分の働いている会社について説明した後）で、この間、

かなり、もう三ヶ月ぐらい前に、(うん。) 履歴書送ったんですけど、この間、ひょこっと電話かかってきて。(うん。うん。) で、面接に来てみないかって言うんで、(うん。) で、行ったでしょ。行ったら、次の日に電話かかってきて、じゃあ、来て下さいっていうことで。(時間)

(5) [-人名-] はね、一時ね、ちょこちょこ会ってたんだけど、今、最近、会ってなくて。(時間・対比)

(6) だから、あたし達はアメリカの方が物価安いけど、あの人達ってアメリカの方が物価高い訳じゃん。(対比)

(7) (アメリカでの生活を楽しんでいると言う A) A : もう何しろさ、物価が安くてさ。(うん。) 日本にいた時とは、なんか信じられないような楽な生活。(あっ、本当!) うん、家賃も、まあ、会社が持ってくれてるってこともあるんだけど、(うん。) 何しろ食べ物が安いのね、何でも、お肉買うにしても何にしても。(へえ。うん。) だから、生活費は結構楽。(並列)

「共存・時間・対比用法」のうち、「対比用法」では、一部ではあるが、次のように「けど」が文末に来る例があった。

(8) バイクならさ、置かしてもらっても邪魔になんないじゃん。(そうだね。) うん、車じゃ邪魔になるけど。

3、前置き用法

「問題となる事柄を前置きとして述べ、それに関連する叙述を導くのに用いられる。話題・場面の提示」(国立国語研究所 1951 : 44-45、『日本語文法大辞典』2001 : 239) をする用法である。

(9) 今日パーティやるんだけど、来る?

(10) (病院で超音波検査をして) なんか、石が溜ってるけど、(ああ、はあ、はあ、はあ。) その石がすごいいっぱいだからって言われて。

(11) (友人の新居について聞かれて) あのね、詳しくは聞いてないけど、(うん。) [-地名-] って言ってたよ。

（12）なんかあったら、悪いけど、電話してくれないかな。

4、補正用法

白川（1995：11-13）の「「倒置的」な用法」であり、「先行の文で話し手自身が言ったことを補正する機能を持つ」用法である。この用法は、基本的に文末に「けど」が来るが、本稿では、前言を修正する働きを持つ場合は、挿入的に使用される場合も含めてこの用法に分類した。

（13）お兄ちゃん、でも、夏休みになってるけど、毎日学校へ行く。（本当。）一日おきだけどね。

（14）［-車種-］?（うん。）うん、あれは元気だよ。（あ、元気?）この間、修理に出したけど。

（15）A：お父さんと代わろうか?

B：ううん。なんか、一人としか話しちゃいけないし。

A：あっ、一人でしか=（=は、次の発話がかぶることを示す。）

B：わかんないけど。

（16）あのね、家、近いの。近いっても、1時間ぐらいはかかるんだけど、そんな遠くないのね。

5、補足説明用法

国立国語研究所（1951：48）の「補充的挿入を表す」用法である。LDCでは、挿入的に使用される例より、「けど」が文末に来て前の事態の補足説明をする例のほうが多かった。発話として「けど」で完結しているが、前の事態の補足的な説明をする用法であり、接続助詞として機能している。補足説明用法は、前の事態の内容に関する補足説明をする。「内容に関する補足説明」とは、内容に関する事実または出来事の補足説明、または、内容に関する真偽についての補足説明と規定しておく。

（17）A：[-ホテル名-]のね、

B：うん。

A：あのバイキングがあったの。

B：へえ、そう。

A：だから、そこへリザーブして。

B：ケーキがいっぱいあったとこか。ケーキが、

A：いや、そうじゃなしに二十八階へ。[-人名 B-]の知らない所なんだけどね。

（18）（リッチな友達の話をして）だって、すごいマンションに住んでるんだよ、見に行ったけど。何でこんなとこ、住めるのって。

（19）A：あっちの時差は、いいの?

B：時差 2 時間ぐらいあるんかな。わかんないけど。

（20）この間の十月にさ、うちの親が叔母さんと一緒に遊びに来て、（うん。うん。）叔母さんって、うちのお母さんの妹なんだけど。（うん。）で、二週間ぐらいいたりして（うん！）

6、終助詞的用法

文末の「けど」のうち、話し手の心的態度を表現するものを終助詞的用法として分類した。

（21）だから、どういう風にしたらいいか、一応［-人名-］に今日電話して（うん。）[noise]夜、10 時頃いるといいんだけど。

（22）A：まあ、でも、元気そうで良かったよね。

B：えっ? そんなことないんだけどねえ。うん。

（23）その気づかない人はもう私はもう最低だと思うんだけど。なんて言うか、うん。

さらに、文末の「けど」には、接続機能をもたない次のような例があり、これらも終助詞的用法として分類した。これらの「けど」は省略でき、接続機能がないと考えられるものである。

（24）（きのうは）ちなみに、宿題しないまんま寝ちゃって、今日持って行かなかったんだけど。

（25）A：何時だっけ? 十日かもうちょっと前に、（うん。）［-

人名 C-］から家に電話かかって来て、（うん。）で、「［-人名 A-］ちゃんか［-人名 B-］ちゃんか［-ミュージカル名-]の日本語の歌詞知らない」って言うから、「［-人名 C-］、あたし、知らないからちょっと待って、［-人名 B-］ちゃんに代わる」とか言って。（{laugh}）で、［-人名 B-］ちゃんが一所懸命思い出してさ、こんな感じ、こんな感じとか言って。（うん。）なんかやってたけどね。

（26）日曜日はあのう universal studio にね、行って、で、翌日、朝の飛行機で帰って、で、次の日は早速仕事とか言ってたけど、［-人名-］。

（二）「けど」の用法の使用頻度

「けど」のそれぞれの用法の使用頻度を図 3 に示す[5]。

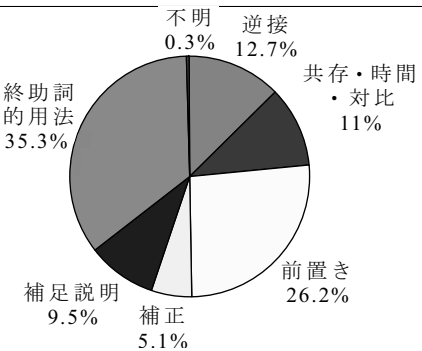


図 3　LDC「けど」の用法

LDC の「けど」で最も多いのは終助詞的用法である。370 例（35.3%）と「けど」の用例中、約 3 分の 1 強を占める。次は、前置き用法である。この用法の「けど」は 274 例（26.2%）とほぼ 4 分の 1 を占めた。逆接用法は第 3 位であり、133 例（12.7%）と、1 割強に

[5] 発話の途中で、聞き手が話を始めたため、話し手の発話意図が十分わからない「けど」2 例と、音声が聞き取りにくい語を含む発話の「けど」1 例を不明として分類した。

とどまった。そして、共存･時間･対比用法が 115 例（11.0%）、補足説明用法が 99 例（9.5%）、補正用法が 53 例（5.1%）と続く。

このデータをさらに詳しく考察する。才田･小松･小出（1983：19-29）は副詞節の注釈表現の機能を論じており、その中で、「けど」「が」などを含む節を多数記述している[6]。才田･小松･小出（1983）で指摘されているように、前置き用法、補足説明用法、補正用法は全て注釈をする働きをしており、その違いは前置きか後置きかということにあると言える。よって、これら 3 つの用法を注釈用法と 1 つにまとめることができる。そうすると注釈用法の合計は 426 例（40.7%）となり「けど」の用例中最も多くを占める用例となる。

五、結論

本稿では、LDC のコーパスを調査し、自由な会話における接続助詞「けど」の用法の使用頻度について調査した。その結果、逆接用法は「けど」全体の 12.7%を占めるに過ぎないこと、そして、前置き、補正、補足説明用法などの注釈をする用法が全部で 40.7%を占めることがわかった。注釈をする用法が逆接の用法より多いことから、自由な会話では、「けど」の中心的な用法は逆接ではなく、注釈をする用法である可能性があるのではないかと考えられる。

井島（1999：113）は、逆接確定[7]にはいくつもの表現があるが、期待内容と主張内容とに対立があるという点は原則としては共通している。しかしながら、ガ・ケレドには因果関係が存在せず、対比を表すと思われる（27 a）のような用法があるが、（27 b）のように並列にも用いられ、このような用法が所謂前置きの用法に拡大していったものだろうと述べている。

---

[6] 才田･小松･小出（1983：19-29）は、副詞節の注釈表現の機能を、社会的ルールへの配慮､伝達性への配慮､話し手の心的態度という 2 つの観点から論じ、おもに注釈対象の前にあるものを分析している。そして、後置きとしては、補足的な例、訂正機能を持つ例を 1 つずつ挙げている。

[7] 井島（1999：113）は、ガ・ケレドの他にノニを記述している。

（27）a.山田は背が高いが／けれど、田中は背が低い。

b.山田は背が高いが／けれど、田中も背が低い。

本稿でも、コーパスの分析を通して例（5）のように、時間と対比用法両方の意味を持つ場合があることを見た。

（5）［-人名-］はね、一時ね、ちょこちょこ会ってたんだけど、今、最近、会ってなくて。（時間･対比）

本稿では、「けど」の用法に共通する機能として、「説明」「注釈」という働きがあるのではないかと考えている。先に説明という機能があり、文脈により注釈用法、共存･時間･対比用法、逆接用法となり、さらに、終助詞的用法が生じたと考えられるのである。もちろんこれについては、様々な資料やコーパスを基にしたさらなる調査が必要であるのは言うまでもない。

本稿で得られた調査結果から、日本語教育の現場では、学習者に対して、接続助詞「けど」は、説明、注釈という機能を持つことを積極的に教え、逆接の接続助詞であることを強調しすぎるのではなく、逆接用法は「けど」の用法の１つにすぎないという視点で教えるべきであると考える。説明、注釈という「けど」の中心的な意味を提示することにより学習者の負担を減らすことができるのではないかと思われる。

今回考察することができなかった終助詞的用法の「けど」については、別稿で論じたいと考えている。

謝辞

本誌査読委員の先生方より貴重なご助言をいただいた。深く感謝申し上げる。

なお、本稿は行政院国家科学委員会の研究費補助金（専題研究 NSC 98-2410-H-432 -005-）による研究成果の一部である。

参考文献

庵功雄（2011）「日本語記述文法と日本語教育文法」『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房

井島正博（1999）「助詞から探る日本文法(4)接続助詞あるいは期待対比構造」『言語』 28(4)、108-113　大修館書店

伊藤勲（2005）『条件法研究―いわゆる接続助詞をめぐって』近代文芸社

岩澤浩美（1985）「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56、39-50　日本語教育学会

小出慶一（1984）「接続助詞ガの機能について」『アメリカ･カナダ十一大学連合　日本研究センター紀要』7、30-43

国立国語研究所（1951）『現代語の助詞・助動詞－用法と実例－』秀英出版

小林ミナ（2002）「日本語教育における教育文法」『日本語文法』2-1、153-170　日本語文法学会

----------（2005）『日本語教育』125、9-17　日本語教育学会

才田いずみ･小松紀子･小出慶一（1984）「表現としての注釈－その機能と位置づけ－」『日本語教育』52、19-31　日本語教育学会

白川博之（1995）「「ケド」で言い終わる文」『広島大学日本語教育学科紀要』6、9-17　広島大学大学院教育学研究科／教育学部日本語教育学講座

清ルミ（2004）「コミュニケーション能力育成の視座から見た日本語教科書文例と教師の"刷り込み"考－「ないでください」を例として－」『異文化コミュニケーション研究』16、1-23　神田外国語大学

時枝誠記（1950）『日本文法 口語編』岩波書店（服部四郎他編（1979）『日本の言語学 第4巻 文法Ⅱ』272-282（大修館書店）に再録）

日本語記述文法研究会（編）（2003）『現代日本語文法7 談話・待遇表現』くろしお出版

前田直子（1995）「ケレドモ・ガとノニとテモ」宮島達夫・仁田義雄

編『日本語類義表現の文法（下）』496-505　くろしお出版
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

使用コーパス：The CallHome Japanese speech（1996）
Linguistic Data Consortium（LDC）が Large Vocabulary Conversational Speech Recognition というプロジェクトの支援を受け、収集したデータである。LDC は、ペンシルバニア大学を中心とした、言語教育、研究、開発を支援するアメリカの研究機関である。（http://www.LDC.upenn.edu/）